

憲法を起草する会《大阪》 第八回 議事録



日本自治会について

●おやじ

日本自治会は、「集団の集団」をイメージしている。最終的に、行動として形に示していく為に、日本自治会を運営していきたい。

憲法を起草する会や勉強会は、「個人」。日本自治会に関わる個人として、自由に参加できる場としての「憲法を起草する会」を実施していきたい。

「憲法を起草する会」という名称だと、憲法の勉強をするような固い場かと思われたり、逆に「憲法の勉強と思って来たら、憲法の話しないじゃん」というのもあった。

そこで、名称を、「日本自治会大阪門集会」と、自治会の方の入り口としての「門」というのはどうかと思った。「門」というのは、門戸を開くなどというイメージ。

問題意識を拾い上げて、日本自治会の活動に移していくというイメージ。単なる勉強の会ではなく、その後、実際の行動に起こす為の入り口としたい。

ただ、憲法を起草する会や勉強会に参加している人は、「行動にまで起こそう」というつもりで来ていない人も居ると思うので、そのあたりは自由にしてもらえるような名称が良いと思う。

憲法を起草する会では、意見集めや問題提起の場とし、実際に行動を起こしたい人は、日本自治会に入るイメージ。

●参画者

おやじさんは、「取り戻す」という事をよく言われるので、「取り戻す」という言葉を入れたら良いのではと思う。

●参画者

おやじさんから、寄り合いに行った時の話が出たりするので、集会ではなく、「寄り合い」ではどうだろう。

●参画者

「むすびの会」はどうだろう。

●おやじ

むすびの里は日本自治会の1メンバーとして参画する予定。「むすび」と使ってしまうと、むすびの里が取り仕切るというような形になるので良くないと思った。

「大和自治会」としても良いかと思ったが、大和地方だけになっても良くないと思ってやめた。

●参画者

「憲法を起草する会」より、日本自治会の方がしっくり来ると思う。

憲法を起草する会だと全体のルールを決めていこうというイメージがあるが、日本自治会だと、ここで話したことを自分達の自治にいかしていこうという意図だと思うので、よりしっくり来ると思った。

序盤で、自分は一つ勘違いをしていて、ここで決めたことを日本全体に広めて取り組んで行くのだと思っていた。

●おやじ

それもやっていきたい事ではあるが、既存の枠組みしか使えない状態だと、「じゃあ自分達が推している政治家に伝えて進めてもらおう」としかならない。

しかし、自分達で日本自治会みたいや組織を作れば、政治家や行政に頼らなくても推進していける。現在はそういう母体が無いので、それを作りたい。

●参画者

「門」というのは良いと思う。ゲート。空間の広がりを感じる。聞いたことが無いので、「なんじゃらほい」となるのは良いのではないかと思う。

●おやじ

皆さんの意見を聴いていて、「集会」より「寄り合い」の方が良いと感じた。もし、「シュウ会」にするのであればではなく、「集会」ではなく、「衆会」にしようと思っていた。

●参画者

自治会だと、行政のイメージがどうしてもある。過去の文献で何か良い言葉が無いのだろうか？

●参画者

個人的には、自治会が最高だと思う。ただ、頭の日本を取っても良いのではとも思う。

●参画者

「在所共同体」というキーワードがあるので、土地や国土や、産土など、町の自治会と異なる言葉は入ればよいのではと思う。

●おやじ

今回、突然に皆さんに公開したので、次回の憲法を起草する会でも話し合っていきたいと思う。むすびの里のメールでも良いし、次回の会でも良いし、「こんなの良いのでは？」という案を教えてください。

「日本自治会」というような、冠のところは揃えて、「大阪寄合」とか「大阪衆会」というように運用していきたい。次回、後半の時間の20分などで話し合えたらと思う。

■ 本田優さん発表《オフィスビル乱立問題について》

●本田優さん

※詳しくは下記資料参照。

▼資料

■ 本田優さん.pdf

大阪憲法起草の会 宿題

本田 優

私の職域としましては、大学にて経営学を専攻後、設計事務所にて空間とビジネスをつなぐコンサルティングを行ってきました。具体的には、オフィスやオフィスビル、商業施設などを主軸に、クライアントが保有もしくは賃貸する不動産の定量的な現状分析から改善に向けたリサーチや提案を行い、それに見合った設計要件を整理、設計およびインテリアデザインにまで落とし込む、という仕事を主に、2015年より6年間従事してきました。2019年に独立し、株式会社Tokyo Creators' Projectを設立。現在もそちらにて上述した不動産および内装デザインに関わるコンサルティング事業を行っております。

問題提起

業界や職種に介在する問題は大小様々ありますが、本会では「オフィスビル乱立問題」をその中の一つとして取り上げたいと思います。

オフィスビル乱立問題

一度訪れたことがある方はご存知の通り、首都圏には既に低層・中層・高層のあらゆるビルが、これでもかというほどに敷き詰められています。

そのような状況下でも、毎年10~20棟前後の大型の高層オフィスビルは新築竣工し、不動産リサーチ会社はグレードの高い*オフィスビルの空室率は1%前後だとレポートします。

そして横浜・大阪・名古屋・札幌・福岡などの地方都市もまた、首都圏に倣うような都市開発を進めています。

*オフィスビルはそのビルの特性や築年数などによってグレードSからBまでランク分けされます。

参考：首都圏新築竣工予定のオフィスビル

2020年19棟 延べ床面積 580,000坪 すなわち、20万~30万席分のオフィス面積

2021年12棟 延べ床面積147,800坪 すなわち、5万~7.4万席分のオフィス面積

2022年 15棟 延べ床面積202,300坪 すなわち、6.7万~10万席分のオフィス面積

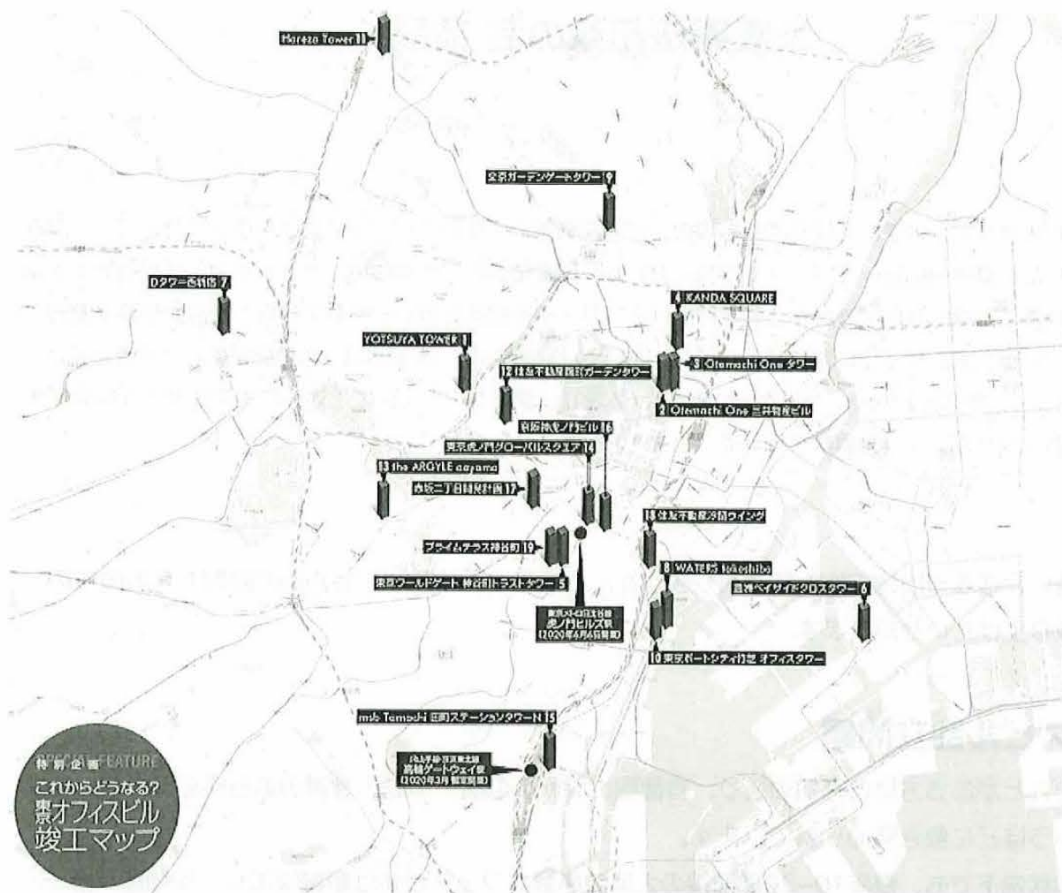
2023年 15棟 延べ床面積492,500坪 すなわち、16.4万~24.6万席分のオフィス面積

2024年 31棟 延べ床面積2,345,500坪 すなわち、78万~117万席分のオフィス面積

5年間で、計92棟 延べ床面積 3,768,100坪 すなわち、125.6万~188.4万席分のオフィス面積
首都圏の生産年齢人口2,600万人に対して、およそ5~7%のオフィス面積を新たに作る計画です。

*首都圏の標準的なオフィス面積: 2~3坪/席

*CBRE株式会社レポートより



現代を取り巻く社会情勢を考慮すると、明らかに矛盾した建設計画です。

1. 人口減少

日本は過去10年、人口減少を辿り、その傾向は将来予測においても継続します。首都圏においても、その生産年齢人口は2000年(約3,000万人)を境に減少。2040年には2200万人程までに減少するとされている。毎年労働人口が減少しているのに、なぜ毎年300万坪もの新築オフィスビルが必要なのでしょう。

*総務省による国勢調査に基づく値

2. リモートワークの推進

テクノロジーの進化そしてコロナ禍を経て、首都圏を中心に、ホワイトカラーの人々はリモートワークで業務がこなせるようになりました。リモートワークという働き方の是非は別論とし、私の会社で調査・分析した中でも、首都圏の企業の出社率はコロナ前で60~70%、コロナ禍では10~20%が平均値です。(国内中小企業50社ほどの平均値)

現在調査している中でも、ほとんどの企業が、アフターコロナにおいて、リモートワークを継続するという方針を持っています。ヒアリングの中で、アフターコロナにおける企業の平均出社率30~50%程が標準となるでしょう。すなわち、企業が持つオフィスの面積は必然的に小さくなるはずで

3. シェアオフィスの台頭

あらゆる業界でシェアサービスが台頭する今日、オフィス業界でもシェアオフィスは増加しています。シェアサービス(共有)の根本的なメリットは、自分自身では使い切れない余剰の部分を他人と共有することで、両者の経済的負担を軽くすること、にあります。この原理に従うと、シェアオフィスの利用が増えるほど、これまで空席だった余剰分が共有され、必要面積は小さくなるはずです。

このような時代の流れに反して、業界のスクラップアンドビルドは続いています。

何が問題なのか

1. 建設業の産業廃棄物は20%(上位3位)を占める

*環境省 産業廃棄物の排出・処理状況（平成30年度実績）

サステナビリティやSDGsのような目標値を掲げ、バッジを胸にまで付けるくせに、産業廃棄物を出しまくっています。つまるところ、売上・利益・経済的成長の天秤に掛けた時に、現在の企業はそれ以外の重要指標を無視した意思決定を行います。

2. 都心部の熱帯化、異常気象、熱中症

首都圏都市部の気候はもはや湿潤温暖ではなく亜熱帯だと言われます。過去40年間のうち、熱帯夜の日数は約2倍に増加。熱中症は増加し、今夏、毎月のように熊野と東京を往復して肌で感じましたが、気候が全く違います。緑地や水面の減少とコンクリートジャングルが天候を乱し、自然や生態系を犯しています。

3. 空室による無駄な不動産

労働人口やオフィス出社数が増えないのに、オフィスビルが竣工すると、当然空室の不動産が増えます。使われないまま放置され、ただ空を遮っている存在となり、時が経てば廃墟やゴーストタウンと化します。また日本人がその土地を活用しない場合、国外資本で押さえられてしまうこともあります。（北海道は顕著な例となりつつあります）

4. 高騰する不動産価格

グレードの高いビルと低いビルの坪単価賃料には大きな差があります。グレードの低いビル（築古・利便性に乏しいロケーション・設備の劣化など）の上手な利活用を不動産・設計側が提案せず、グレードの高い高級ビルばかり建て、企業をそちらに動かすと、当然、全体の不動産価格は上がります。

都内の住宅では顕著に見えてきていますが、居住する住居やオフィスの品質の差が大きく乖離し始めています。

30歳の設計士が月5万円の6坪ほどの1Rでベッドに座りながら食事をしたり、3日間連続で徹夜しながらアトリエで寝泊まりしている。それは設計業界ではよく見られる光景です。

一方で、「不労所得」の名の下に、月100万円30坪ほどの高層マンションで悠々自適に暮らす30代もいます。人生の選択の違い、と言ってしまうかもしれませんが、一生懸命勉強し、労働し、人々が暮らす建物を設計し、命を預かっている人でも、「衣・食・住」の安定が図れない社会構造が、「不動産」という製品を元に出来上がってしまっています。

5. 空が狭い

社会問題として捉えられることはあまりないですが、体感として東京の空は狭いです。開放感がなく、鬱屈とした雰囲気は私は感じます。

なぜ引き起こっているのか

1. 不動産開発による不動産業の無限成長

もう建物の数は十分なのに、なぜ新築ビルの竣工が次々と発生するのか。大きな理由の一つは、不動産開発をしないと不動産会社が「経済的成長」をしないことです。現在の企業は、経済的に成長し続けたいといけないという「無限成長」を大正義に置いています。去年より今年、今年より来年の方が売上が多く、利益が高くないと、株主に認められず、企業として評価されない。

しかし、国土面積は増えるわけでもなく、人口も増えるわけではないため、矛盾が生じます。品質の維持や改修では成長しないため、真新しい投資をし、高い賃料を獲得し、異常な投資額の回収を、継続的に行う必要が「無限成長」では必要なのです。

2. 国外資本の流入

オフィスビルではまだ顕著になっていませんが、ホスピタリティ業界（ホテルや商業施設）では国外資本の流入が見られるようになってきました。目ぼしい物件があれば購入し、開発し、気付いた時には、日本や日本人が持っている土地はほとんどなくなり、事実上の国土占領もあり得ることです。北海道などのウィンターリゾート地では中国資本の宿泊施設などが非常に増えています。

3. 消費者の新築へのブランド

日本人は新築好きだ、とよく言われます。それは国の風土から来るものもあります。（日本は木造の文化のため、建築物の耐久年数が欧米と比べて低く、数十年に一度、建て替えをする文化がある。一方で欧米は築年数が古いほどに価値の高い建築物である、という価値観を持つ）

ただ現代で見られる新築や新しいものに飛びつく傾向はまた別のものだと感じます。

4. 不動産業界が決めた相場に踊らされる

首都圏における一般的な家賃の相場はなんと言われるかご存知でしょうか。月給手取りの3分の1です。30万円であれば10万円、50万円であれば17万円の住居が妥当だと言われます。多くの人が「そんなもんか」と言って物件を探します。この妥当な相場は誰が決めたの

でしょう。

ちなみに10万円で23区内に住もうと思うと、駅徒歩10分以内、築年数5年未満、1K (30~35㎡)や、駅徒歩20分以内、築年数20年未満、1DK (40~45㎡) でしょうか。

駅近で一人で住もうと思っても豆缶みたいな家ですし、駅から離れて少し古くてもいいと思っても、家族で住むには部屋が足りないでしょう。そこでみんな無理して少し上の家賃のマシな住居を選択します。

“みんなこんなもんで暮らしている”という謎の業界相場に踊らされる結果、首都圏の人々の給与の3分の1が不動産業界に流れている。業界にとっては、ものすごく便利な構造だと思います。

オフィスビルも同様です。

首都圏でのオフィスの坪単価家賃の相場は3万円前後です。そして、一人当たりおよそ3坪ほど必要だと言われます。100人の会社だと300坪、そして、900万円の家賃が必要だと言われます。経営者も総務担当者も「そういうもんか」と言って頑張って借りるわけです。すると、高級ビルの空室率は下がり、それを不動産会社は報告し、そしてまたオフィスビルが足りないということでビル建設を計画します。

将来想定される問題

この状況が今後も継続されるとすると何が起こるでしょうか。

1. 資源の枯渇
2. 天候の変化
3. 地域性の消失
4. 居住環境および労働環境の格差
5. 国土の損失

現憲法にこのような活動を見直すものがあるか

第11条 国民は、すべての基本的人権の享有を妨げられない。この憲法が国民に保障する基本的人権は、侵すことのできない永久の権利として、現在及び将来の国民に与えられる。

第12条 この憲法が国民に保障する自由及び権利は、国民の不断の努力によつて、これを保持しなければならない。又、国民は、これを濫用してはならないのであつて、常に公共の福祉のためにこれを利用する責任を負ふ。

第13条 すべて国民は、個人として尊重される。生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利については、公共の福祉に反しない限り、立法その他の国政の上で、最大の尊重を必要とする。

第25条 すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。国は、すべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない。

現憲法において、国の資源や自然、天候への敬意、地域性や文化の保持を目的とするものはほとんど見つからず「人権」へのフォーカスに限っています。「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」は、一見人々の居住環境や労働環境の格差を是正する文言に思えますが、実態としては、企業や個人

が資金力によって自分勝手に、土地を占有し、開発し、その結果招く生活格差や地域性の消失、国土の損失を咎めることは出来ていません。

課題解決にみちびく考えや詔・これまでの参加者のご提案

1. 無限成長という経済目標の固定観念を捨てる（私利私欲に走らない）

第二六五詔 王公諸臣の濫に土地を私有することを禁じ並に墓域宅地の歩数を定め給ふの詔
[参考1]

第二九五詔 山野を占むるを禁じ給へる詔 [参考2]

第四四一詔 国司を戒し民に農を勧め給ふの詔 [参考3]

第四六二詔 墾田に開するの詔

第七六一詔 王臣・社寺・豪族などの土地独占を禁じ給ふの詔

*別紙参照

歴代の天皇は、役人や位のある人が土地を占め、私利に走ることを禁じ、土地（田畑や山林）はあくまでも、民が生業を行う国の重要な基盤として扱っていたようです。土地を持つものは土地を持つものの責任と規範があり、私有化に関しては逐一注意を促しています。

2. 国土を愛する気持ちを取り戻す

税制と幣制についての考察 生田さん

「土地」とは本来、「権利」などではなく、わが国固有の風土であり、私たちが代々生存し、わが国の靈性が生じる基盤であって、この国土があまりにも美しいため、私たちのご先祖は、意識的にも無意識的にも、子々孫々に受け継がれるべき自分自身の延長のような公共財として、こよなく愛した対象だったのだ。

森さん

「わが国土は、語字によればイザナギ・イザナミの生み給うたものであって、我らと同胞の関係にある。われらが国土・草木を愛するのはかかる同胞的親和の年からである。」

P85-87 「国体の本義」文部省 1937年

和歌「花より明くる み吉野の 春のあけぼの見渡せば もろこし(唐)の人も こま(高麗)の人も 大和心になりぬべし」

3. 循環の意識を持ち、新しければ良い・多ければ良いという考えをやめる

宮平さん

小惣知足・儉約を旨とし、自国民の命に責任を持つこと。

森さん

「皇国のカミは<略>人のみにあらず、<略>すべての神霊あるもの、可畏物(かしこきもの)

を、皆その現身をカミと言う。また生類のみにあらず、山川海の類にいて、神霊ある、また可畏(おそるべき)をば直に其物を指してカミと言う。」

P07「古事記傳 三」本居宣長

4. 人間が建てるものに対して規範を持つ

十七条の憲法 第三条 地は天を覆わない

「三に曰く、詔を承りては必ず謹め。君をば即ち天とす、臣をば即ち地とす。天覆ひ地載せて、四時順り行き、萬氣通ふことを得。地、天を覆はむと欲るときは、即ち壊ることを致さむのみ。是を以て君言ふときは臣承り、上行ふときは下靡く。故に詔を承りては必ず謹め、謹まずんば自ずからに敗れなむ。」

“天が地を覆い、地が天を載せることで、時が流れ、あらゆる気が通う。地が天を覆うことを望むときは、物事は上手くいきません。”

まとめ

今回、「オフィスビル乱立問題」を課題設定した時、問題が大きく根が深すぎて、どうしたものか悩みこんでしまいました。しかし、皆様のこれまでの発表や詔などを読んでいるうちに、自分自身が在所共同体の中で生きる時に、このようなことを心に留め、みんなで守りながら、暮らしていけばいいんだと最終的には思うことが出来ました。

1. 私利私欲に走らない。土地は民のものであり、民が農を中心とした生業を行う基盤である。土地を持っているものは、みんなが仕事できる場を整え、提供し、休息や飲食、団欒のできる家を提供する責任がある。
2. 土地とは、風土であり、先祖代々、美しく継承してきた日本の宝であり、国の象徴である。
3. 生きとし生けるものの循環をいつも考え、足るを知り、命に責任を持つ。
4. 天地の理を知り、地が天を覆うことがないよう、謙虚でいること。

●参画者

すごく綺麗にまとめられており、素晴らしいと思った。マンションの乱立で共感していたが、オフィスビルの方が問題の根が深そう。

商業施設でも売り場面積がどんどん増えていることに問題を感じる。出店の際、「新しい商業施設にお店を構えるのであれば、集客に課題のある旧施設にも入って欲しい」と交渉され、どんどん売り場面積が増えていく仕組み。

本田さんの言われるような。限界なき成長というのは、どうにかならないのかと思うが、お金を稼がないとスタッフも食べていけないし、自分も仕事をしながら矛盾を感じることは多々ある。

しかし、その意識は是正していかなければならないと感じる。「無駄な成長は求めない」という価値観を持っておかなければならないと思う。

経営者の中では、「できたら稼ぐ」とか、「できたら売上が多い方が良い」という価値観の人がいっぱい居る。そのような話ばかりするので、経営者の集まりに行くのは個人的に好きではない。

●参画者

GDPが増えないと貧乏になるのでは？

●参画者

自国内だけで経済を回すのであれば、GDPは求めなくても良いのでは無いと思う。GDPは、海外と比べる為の指標であって、GDPを求めるからこそ、格差が広がり経済的弱者にお金が入らないという状態になっている。

●参画者

自分は建築業をしているが、木材や、給湯器などが入って来ない。GDPを上げなければ、国民は貧しくなるのではないか。

●参画者

本田さんが前の会社で言われたという、「現状維持は衰退だ」という言葉を、ほぼ毎日社長に言われている。なので、命令違反で現状維持に全力集中してやっている。

今の日本では、それなりの生活をする事ができるが、そこから更に架空のユートピアを作ろうとしているのではないかと思う。もしかしたら、物がなかった時代の人の多くは、「成長がなくなったら落ちていく」という価値観なのかもしれない。

仕事で、20代、30代の人達と話をする、「自分達は十分豊か。このまま無理せず、安定した仕事をして給料もらっていたら駄目なの？」という意識だったりもする。世代によって価値観が変わる。

この20年間、実はGDPは上がっておらず横ばい。だとしてもやっていけている。問題は、横ばいで格差だけが広がっているという事。

ヨーロッパやアメリカではより顕著で、GDPが増えた分は富裕層が持っていてしまって、どんどん格差が増えている。GDPが増えれば増えるだけ、格差は拡大していく。

●おやし

GDPなんかを指標にするから間違っている。GDPを増やすのであれば、金持ちにもっとお金を稼いでもらえば良い。そうすればGDPは上がる。庶民がいく消費をしたってGDPは上がらない。庶民が使うお金と、金持ちのお金の桁が全く違う。

●参画者

中国では、GDPが10%伸びた言われていたが、現地に仕事で行った時に見たら、何も無い郊外にビルだけ建てて、全然入居されていないという実態があった。しかし、投資して建物を建てたから資産価値が上がり、GDPの数値は上がったことになっている。

●おやし

GDPという数字には実態が無い。GDPを増やそうとするからこそ、人々は貧乏になる。そういう仕組みになっている。

建築資材が入って来ないというのもGDPは関係無い。お金があったとしても現在は資材が買えない状態。なので、お金やGDPは全く関係無い。

自立すれば国内でお金が回るので、みんな豊かになる。資材などのお金を国外に持って行かれるから貧乏になる。「GDPを上げる」という考えと「商売」は一緒に、金になるところだけに力を入れて、金にならないところは切っていくという事。

現在は、国の経営が会社経営のようになってしまっていて、効率的にGDPという数字を上げる為に、金を投入しても儲けが少ないところには投資しないようにしている。GDPを指標しているとそうなるので、そういうものを指標にする事自体が間違っている。

●参画者

GDPを指標にしていたのは、高度経済成長期で、資本主義が暴走しなかった時の話。現在は、外資系のAmazonが日本国内でお金を稼いで、税金を全然支払わない状態。

本来は法人税を元にして投資をしてお金を循環させていたが、外資系の大企業は支払う気が無いので、格差だけが増えてしまっている現状。

そっちの方をどうにかしないと成長自体ができない。資本主義のストッパーが外れてしまっており、そのストッパーをどうにかしなければ、高度経済成長期のような成長はないかと思う。

●参画者

根本的に理解できていないので質問をしたいが、日本人が不動産を買わなかった場合、外国資本が買って行くのか？

●本田優さん

それは、ビルによるが、不動産の会社さんにとっては、誰かに買ってもらったり、誰かに借りてもらった方が良いので、誰かが「借ります」と言えば貸すと思う。

●参画者

自分は要らない物は買わないが、皆がそうになって、要らない物が売れなくなったら、要らない物は作らなくなるのだろうか。それとも、外資系の資本家が「作ってくれ」と言ったら建っていくものなのだろうか。

●参画者

10億以上の不動産は、個人の人を買うということは珍しい。現在は、ファンド、リートという形で買い取っている。単に不動産を金融商品化していて、建物の良し悪しでは無く、いろんな人のお金をかき集めて買っている。もちろん海外の人にも居るが、その中でも一番多いのは国。不動産を買わざるを得ない状況がある。

もう一つは、土地の相続税を払えなくて、物納が増えているという現状もある。日本の不動産は、国が買い取って、ファンドという形で運用される状態が増えている。

海外の資本家の誰か一人が買っているということではなく、いろんな人のお金がファンドという形で不動産を買っている。

●本田優さん

そうやって国が買うので、空室率が下がって見える。そうなると「足りない」というレポートが上がって、またオフィスビルが建っていく。

●参画者

国はお金が余っている。お金の逃げ場がなく、株価も上がらないので、投資する場所が無くて不動産に投資する。そうやってファンドにどんどんお金が集まってくる。

それが進むと、いつか利回りが下がって来て、バブルのように弾けるのではないかと思う。

中国人は、3年前ぐらいからおとなしくなって来た。中国のお金を外に持って来るのが難しくなったみたいなので、わかる形では持って来ていないと思う。中国人は国のことを信用していないので、わからないように海外に資産を移している。

●参画者

発表に憲法の話が出てきたので、「憲法に書いてないじゃないか」と言われていたことについて一言。憲法には書いてある。どこに書いているのかというと、十二条の公共の福祉という言葉。

公共の福祉というのは、人権ではなく、みんなの幸せ。福祉=幸せの事。みなさんの幸せの為に使わなければいけないですよと記載されている。

今の憲法には人権の事しか書いてないじゃないかと言われるが、それは一部のリベラル系の人が言っているだけ。裁判所は公共の福祉という概念を重要視しており、個人の勝手な権利より、公共の福祉の方が優先されるという考え方がある。

不動産の話で言えば、日本国憲法第29条2項に「財産権の内容は、公共の福祉に適合するやうに、法律でこれを定める。」とあり、財産権の記載がされている。公共の福祉に反していれば、個人の権利を制限するということも記載されており、人権ばかりが尊重されるということは大いなる誤解。

公共の福祉というのは、今の憲法で初めて言ったのではなく、神武天皇の建国の勅や、その後の天皇の勅だったり、大日本帝国憲法にもある。民の幸福を、神武天皇から一貫している。民の幸福の為であれば、個人の勝手な言い分は切るとするのが日本国憲法の考え。

●本田優さん

憲法になぜそう記載されているのに、このようにビルが乱立するようなことになるのでしょうか？

●参画者

それは国会でそういう法律を作っていないから。憲法は機能しているが、それを運用できていない。憲法は法律の法。憲法自体は、皆さんの幸せを最優先しているので、その通りに運用できれば問題は無い。

●参画者

憲法における幸福の定義は？

●参画者

「幸福」というのは、マジックワードであり、憲法上では定義がされておらず、裁判所の解釈や分野によって変わってくる。だからこそ、こういう場で議論すべきだと感じる。

●参画者

無限成長ばかりを求めて進めていくのは、後の世には悪だという事をしっかり意識しておかなければならないと思う。

もしかしたら経済成長自体が悪い影響を与えているようにも思うので意識を変えていかないといけない。

●おやじ

今の政治的な解釈は、「幸福=お金」と捉えられているように思う。政策を見ているとそう思う。国民の幸福というのは、経済成長にあると政策的には置き換えていると思う。

内閣ができて、施政方針演説をするとき、政策に対して司法が憲法上の解釈をする機会はない。ということは、司法の立場では政策に対して物申すことは出来ない。

憲法は尊重する立場。憲法に反することはしてはいけなければならないけれども、政策・行政を進めるとき、憲法に抵触しなければ良いということになる。それは、司法ではなく、政治をする人と、行政府が決めている。

政策策定をするとき、行政の立場として、言葉の定義を解釈するので、政策として打ち出される事自体に、国民の幸福の解釈の答えがあるように思う。

自分達に一番関係があるのは政策を実行している立場である行政。行政府は経済成長をするための行政を行っている。

●参画者

日本国憲法が公共の福祉を目指しているという教え方がされていないので、それを自分たちが「公共の福祉とはこういうものだ」ということを言っていく事が大切だと思う。

●おやじ

それを実効性のあるものにしようと思ったとき、違う考えの人がパワーを持っている場合がある為工夫がいる。

現在は、不動産でも何でも、証券化されているという理解。漁業権でもなんでも、実態があるにも関わらず証券と同等の扱いでお金が回っている。

旧来の証券だったら、実態が無いので、お金持ちの人達のゲームでよかったが、実態生活に関わるところまでマネーゲームの対象になって証券化されてしまうと、我々の生活は浮き沈みさせられる。

顕著なのが油。トランプさんのとき、価値がマイナスになった。電気も今年のはじめに50倍になったり。人が実際に使っているということが関係無く、マネーゲームで価値が上がったり下がったりする。

不動産においてもそれがあるのではないだろうかと思う。経済は、実態の需要と供給のバランスで成り立つものかと思えば、そうじゃないのが現状。

●参画者

建物ではなく、田んぼを増やしていくという発想だったらどうだろう？豊かにならないだろうか？

●おやじ

恐ろしいのは、田んぼを証券化されてしまうこと。今は、農業をやっていない人は田んぼを買えないという法律がある。その法律をとっばらってしまうと、そういう世界になってしまう。

●参画者

今、農業法人であれば買えてしまう。農家じゃなくても大丈夫になりつつある。

●おやじ

お年寄りで休耕田をやっている人はすぐに売らるだろう。売れないから売らないが、売ってくれと言われればすぐに売る。そうやって買う人が、お米を作りたいかと言われたらそうではなく、商品にして、お金を回すための道具にする。

●参画者

農地が売れないのは、生産緑地法という法律があって、税率が抑えられているから。農地を持っている方が税金がかからない。

以前、生産緑地法が廃止されるのではという話が出て、農地がどんどん売られるのではと言われていたが、現在は食い止められている。

証券化とは、100のものを100個に割って売った方が高く売れるということ。また、リスク分散の考え方。サブプライムと一緒にヘッジをかけている。ただ、その大前提の仕組みが全てが潰れると全と一緒に。そういうことに関しては、気づきながらも、見てみないふりをしているようにも感じる。

●本田優さん

現在は、企業の稼働率を調べているが、コロナ前で、実稼働40～50%。コロナ中は、5～10%の稼働率。

●参画者

ほぼ動いていないのに、登記の対象として細切れにされて売られているということでしょうか。

●おやじ

お金がある人はお金が余っているので、投資できる場所を見つけようとしている。漁業権も買えるんだったら買っておこうかという感じ。エネルギーも同様。

●参画者

漁業権を買おうとしているのは風力発電会社。海上風力の問題は、漁業権をどうするかという事が重要との事。

ファンドでぐちゃぐちゃにしたら漁師さんを騙せるんじゃないかと考えているようにも思う。

●本田優さん

こういう問題は根が深すぎる。だからこそ、どうすれば良いのかと思ったが、おやじさんのように、自分達が自立した共同体の中で進めていくというのが有効なのかと思っている。

●おやじ

こういう問題を政治家に期待しても、政府の人間が当事者として関与しているのでどうしようもない。自分達のテリトリーは自分達で作っていくしかない。

●参画者

マネーゲームのプレイヤーはみんなババ抜きだと思っていると思う。いつ抜けようかと思っているけど、どんどんババのスピードが早くなっている。

●おやじ

そんな感じだろうと思う。本田さんがつけてくれた資料は良い資料なので、是非読んで頂きたい。

白山徳彦さん発表《永続企業に向けて》

●白山徳彦さん

※発表は下記資料参照。

▼資料

■ 白山徳彦さん.pdf

第8回 大阪憲法を起草する会

テーマ「自分の直接かかわる職域の問題とその解決のため、そして国民全員が健やかに発展していけるような、憲法に謳うべき文言」

令和3年12月18日 白山 徳彦

問題「永続企業に向けての方針と問題点」

【問題】

経営者の高齢化、後継者不足、人材育成不足、採用不足、高い離職率、銀行法による外資によるM&A、低いキャッシュフロー、人間関係、売上成果主義、過程<結果、ワンマン経営者など

【方針】

経営理念の浸透（家訓）、人材育成、強制イベント（富士登山、キャンプ、合宿、BBQ、海岸掃除、孤児院クリスマス会、忘年会、新年イベント）、月2回勉強会、木鶏会、ベンチマーク、結果<過程、守るべきもの変えていくもの、時代の変化に対応など



人が育つ風土、共に学び共に成長、主体性、良い人間関係（仲間意識）、感謝、お客様や地域から愛される、オンリーワン、社員第一主義、パートナー企業を大事にする、働きがい（チャレンジ精神、権限委譲、失敗を咎めない、成長が実感できる、お客様から褒められる）など



三方良し、和づくり＝共同体、家族主義（出光佐三さん）



〈文言〉

八紘一字、和を以て貴しとなす

（天下を一つの家のようにすること、人々がお互いに仲良く調和していくことが最も大事）

● 2020年に倒産した企業の平均寿命は23.3年（前年23.7年）で2年連続で前年を下回る（商工リサーチ 2020年「業歴30年以上の老舗企業調査 2021.02.03 公開日付」）

●企業の生存率

生存年数5年生存率14.8%、10年6.3%、20年0.4%、30年0.025%（出所:国税庁「国税庁の統計調査による企業の生存率」）

○世界最古の企業創業1000年越え企業が12社中9社が日本に存在！

578年創業:金剛組（現在 高松建設グループ） 建築（大阪府）日本は飛鳥時代、聖徳太子が四天王寺を立てるために百済から招いた宮大工・金剛重光より創業されたのが金剛組。

587年創業:池坊華道会 生花教授（京都府）、705年創業:慶雲館 旅館経営（山梨県）

○創業100年企業の国別ランキング

図1 創業100年以上の企業数と比率

		企業数	比率
1位	日本	33076	41.3%
2位	米国	19497	24.4%
3位	スウェーデン	13997	17.5%
4位	ドイツ	4947	6.2%
5位	英国	1861	2.3%
6位	イタリア	935	1.2%
7位	オーストリア	630	0.8%
8位	カナダ	519	0.6%
9位	オランダ	448	0.6%
10位	フィンランド	428	0.5%

図2 創業200年以上の企業数と比率

		企業数	比率
1位	日本	1340	65.0%
2位	米国	239	11.6%
3位	ドイツ	201	9.8%
4位	英国	83	4.0%
5位	ロシア	41	2.0%
6位	オーストリア	31	1.5%
7位	オランダ	19	0.9%
8位	ポーランド	17	0.8%
9位	イタリア	16	0.8%
10位	スウェーデン	11	0.5%

※企業特定の条件は以下の通り。企業活動ステータス＝活動中。法人形態＝事業所、公的機関、外国企業、宗教法人、小中高校を除く。所在地、売上高（年商100万円以上）情報が収録されている企業

※記載する創業年数は、企業および団体の設立年から業歴を算出

※公表除外国（データ信ぴょう性が疑われる国）＝デンマーク、ケニア、コロンビア、南アフリカ、北マケドニア

※出典＝帝国データバンク、ビューロー・ヴァン・ダイク社のorbisの企業情報（2019年10月調査）を基に作成

●参画者

10年ぐらい前に、アメリカに比べて日本は新しい会社が全然できないということが問題とされており、会社法が変わって、株式会社を簡単に作れるようになった。しかし、これだけ長く続いている会社があるんだったら、新しい会社をどんどん作らなくても良いのではと思う。

●参画者

100年企業について「足るを知る」という価値観があり、商圈を絞って、「自分の商売の範囲はここ」というように範囲を決めて、他の人の商売の邪魔をしなかったのではないかと思います。

人様の商圈にまで入ってお金を稼ぐのは、「みっともない」とされていたのではないか。今の「儲かるんだったらなんでもやれ」というのは先人に怒られそう。そういうことを大事にしていかなければ、会社は短命で終わっていくのではないかと思う。

●参画者

景気が悪いから良くないのでは？

●参画者

それを根本的な考え方を変えないといけないのではないかと思う。このシステムの中で、誰かがストッパーとして、自治を作っていく事が大切だと思う。

●参画者

お金はやはり必要だと思う。食っていくにはお金が居る。はっきり言って足るを知るという余裕が無い。金を稼ぐ為に知恵を巡らせないとやっていけない。

●参画者

白山さんがやられているのは、お金＝幸せというだけではなく、お金は必要だけでも、お金以外で大切な事があるのではないかと一緒に考えていく事だと思う。

一緒に成長していくことが大切なのではないかと思う。

●参画者

自分が大学生のとき、アルバイトをしていてお金がなかった。アルバイトの女性の先輩に、「一週間あと千円しかない」と伝えたら、その先輩はお米を持って来て、これで一週間食いつなげと言われて、なんとか食いつないだ。

こういうことを一緒にできると良いと思う。自分は、「自分がお金を使いすぎたんだから」と反省をして、足るを知って、米だけで我慢して生き延びる。給料だけでなく、物や住まいで分け与える事ができれば良いのではと思う。

●おやじ

要は価値観の転換。昔の会社は、利益がなくてもみんなと一緒に食っていければ良いとなっていた。金剛組を作ったときは、時の政府の要請で、大名が全てを抱えて、生活を保証していた。

今の人は、お金をもらわないといけないという認識に生きている。お金をいっぱい稼げる会社に行きたいという人が多いが、「うちに来ると生涯生きていけるよ」という転換ができれば良いのではないかと思う。そうすると人は集まって来るかもしれない。

昔は、そこに入社しただけで食っていけるという実態があった。今は実態のイメージを持ちにくい。会社に入ったとしても安堵感が無く、データにもあるように、会社の85%が5年以内に潰れる。

「生涯面倒を見ていく」という覚悟が必要かもしれない。こういう時代だからこそ、お金にこだわらない世代も増えている。

●白山徳彦さん

以前、お金の価値ばかりを追い求めていたら潰れかけた。社員もどんどん辞めた。

8年前に、学びの場で方向転換して色々と進めていくと、社員も辞めず、働き甲斐も出て来て、生産性も上がったように思う。

●参画者

余談だが、日本はどんな人でも生きていける。個人でも法人でも、破産したりして生活ができなくなると、生活保護がある。

弁護士として生活保護の申請に同行して色々を見ると、食料をくれたり、住まいを用意してくれている。不正受給なども聞かすが、それで騙していたとしても、また保護してくれるという事もある。

日本の生活保護制度は手厚いので、日本での生活はなんとでもなる。会社が倒産したら生活は一変するだろうが、案外今の社会システムも案外捨てたもんじゃない。

基本的に弁護士が会っているのは、そういう人が多い。そうやって仕事をする、国から少しお金が出る。もちろん、悪用するのは駄目だが、これはすごい仕組み。このシステムはアメリカには絶対無い。

信貴黎香さん発表《書道に関する問題と解決について》

●信貴黎香さん

※発表は下記資料参照。

▼資料

■ 信貴黎香さん.pdf

日本における書道に関する問題と解決

- 一、手書き離れ
- 二、縦書きから横書き
- 三、筆記具による字と持ち方の変化
- 四、言霊信仰
- 五、憲法に謳うべき文言

一、手書き離れ

・書道教育

実用性・芸術性・精神性を学ぶもの

寺子屋「手習い」で普及→の工Oにより毛筆による芸能科の「習字」が廃止（硬筆書きは残る）→必修だった書道がの工Oにより「実用的でない」「日常的に使われていない毛筆を必修とするのは困難」「軍国主義の温床」という理由で廃止→日本人の精神性を育む書道や言霊信仰への恐れの現れ
その後再び毛筆が取り入れられるが低学年からの導入はない、教育内容も芸術性と精神性を重んじる指導から実用性に限定されている

・書道人口

子供の習い事の選択肢が多様→習字教室が選ばれにくくなり、書道人口が減る（二〇二〇年度のレジャー白書によると、二年で百万人減、五年で六割減）

・電子機器の普及

パソコン・携帯電話などの電子機器の普及により、手書きの習慣が大幅に減る→機会が減ることによって書けなくなり、自分の字に自信がない人が増える→より書かなくなる

（手紙・一筆箋・年賀状・記帳）

・脳の働き

書くことは、記憶や学習に深く関連し、思考や創造性を担う脳の最高中枢である前頭前野が活発に働き、心を安定させる脳内物質を活性化させる

打つことは、前頭前野を抑制させ、パソコンやゲームを長時間続けている人の脳波は、「痴呆」と同じ血流が流れていない状態になっていると指摘されている

二、縦書きから横書き

・縦書きは神とつながる

最古の文字、甲骨文字は「天からの声」を表したものの
紙の上部「天」から下部「地」と呼ばれ、真っ白な宇宙空間である
天から地に向かって縦に書くことは、神と繋がり天地の氣を受けることであり、点を書いた瞬間から天地人一体となった表現世界が生まれる

・自然とともにある書道

筆・紙・墨・硯など書道道具は自然からのありがたい戴き物である

仮名文字の「散らし書き」という書式には、「立石」「木立」「藤花」という名称の文字の配置技法があり、名の通りに石のようにまとまりのあるもの、木が立っているように下から上に伸びているもの、藤の花のように上から下に垂れているものと、自然の風景が美しく文字と重なるかの如く書き表される

※右横書きは一行一文字の縦書きの一種

・欧米化による横書きの台頭

明治時代以降、英語や算用数字をはじめとする西洋文化が入ってきたことから、日本でも横書きが使われるようになる

昭和初期では純日本製は右から左、欧米製は左から右という「文字の左右混在」の混乱が起こり、左横書きは革新的、右横書きは保守的となる→右横書きこそ日本語の正統な書き方といふ信念を持つ人も少なくなかった

昭和十七年に国語審議会が日本語の左横書きを定めた「国語ノ横書ニ関スル件」を議決し文部大臣に答申したことで横書きのものは全て「左から右へ」書くように指導が始まり、戦後の工Oによるローマ字採用勧告や漢字の廃止運動などの社会運動により、右横書きは衰退の一途をたどることとなる

三、筆記具による字と持ち方の変化

・字の変化

横書きをするために作られていない日本語（特にひらがな）を無理に横書きで書いている→字の流れの消失→不自然な字形への変化

・持ち方の変化

筆は力を入れて持つては書けないのに対し、シャープペンシルやボールペンが普及したことで筆記具を握りしめて書く人が増える

「引く」という重要な動きが制限され、「押す」という動きになっており、従来の正しい持ち方ができている人が少なくなっている

・姿勢の変化

筆記具を握って持つと、親指が張り出し、頭を真っ直ぐした姿勢からでは自身が書いている字が見えない→机に這いつくばって書く姿勢や頭を左に傾けて、常に背筋が湾曲した姿勢で書いている人が増えている

四、言霊信仰

書いた字は自身の思考や心情の直接的投影であるため、悲観的な言葉や攻撃的な文章を書いている段階で自ら氣付き、自制し、思い直し、書き改めることができる
インターネットでの誹謗中傷やメールでのいじめ問題も自分とは切り離されたゲーム感覚のような「非現実世界」の間接的な出来事のようになってしまうているのではない
いか↓言霊信仰の薄れによって言葉の力を軽んじているから

五、憲法に謳うべき文言

「天地」と「言霊」という言葉は入ってほしい

『古事記』

天地初めて發りし時

『神皇正統記』北畠親房

天地の初は今日の始めとす

（天地の初めなる天岩戸開きによって神のみ光を見得るか否か。それは、今日只今の自分の心の眼を開くか否かにかかってゐる。）

解説…天地の初めと万物の始源とはすべて真理の根源である。この真理を追求するのは、己の責任であり、自分が今日（只今）、これを追求しようと決心した時、その人は、真理の扉を開くことが出来る。今日、只今の自己の決心「覚悟」を求めるところが神道・信仰の道である。神様の御心を見開いた「天岩戸開」も今日の決心次第で、開くことも出来る。神様の御心を見得るか見得ないかはあなたの今日の決心次第。

『萬葉集』

柿本人麻呂 卷十三（三二五四）

志貴島のやまとの國は言霊の佑はふ國ぞま幸くありこそ

（我が志貴島の大和の國は、言霊が幸いをもたらしてくれる國なのです）

山上憶良 卷五（八九四）

神代より言ひ伝（つ）て来（く）らく そらみつ倭（やまと）の國は皇神（すめかみ）の蔽（いつく）しき國 言霊の幸（さき）はふ國と語り繼ぎ言ひ繼かひけり
（神の御代より言い伝え来ることには、空に満ちる大和の國は、神である天皇の統治される蔽しき國で、言霊の幸ある國と語り繼ぎ、言い継いで来た）

●参画者

氣脈とはどういう事でしょうか。

●信貴黎香さん

氣脈というのは、例えば、「あい」と書いたら、「あ」の最後の払っている線が「い」の書き始めに繋がっているという事。

実線としては、繋がってなくても、見えない線がある。横書きだとそれが無くなってしまいが、縦書きにはそのような「氣脈」という考え方がある。

●参画者

今まで聞いた事の無い話だった。字を書く事にこういう意味があったのだというのをもっと多くの人に知ってもらいたいと思った。

自分は会社でお客様にお礼状を書いているが、それを縦書きにしたいとも思った。

●参画者

この話を聞いただけで千葉から来た甲斐があった。両親が習字の先生で、物心付いた頃から習字を教えられていたが、こういう背景とか理由を知っていたら習字の先生になっていたのではないかと思わされるぐらい。

●おやじ

昔の人が手紙をしたためる時、誤字脱字があった時どうするのだろう。そういうテクニックがあるのだろうか。

●信貴黎香さん

横に記載をしたり、赤字で記載をしたりする。坂本龍馬の手紙なども書き足しがたくさんある。

こういうことを学校の授業で教えてもらえると、考えが広がるので良いと思う。書道をやった事があるというのは、多くの人が学校の授業だけ。そこでこのような事を教えてもらえたら有り難い。

日本では、書き初め大会をしているところもあると思うが、中国では既に文化として廃れている。書き初めは続けていってほしい。

●参画者

うちの高校では行儀見習いの授業があり、「硬筆書写技能」というのがあった。毛筆と同じような文字の流れがあって、縦に流れているのが気持ちよかった。

●参画者

小学校の時は成績が良かったが、字が綺麗に書けなくて居残りをさせられていたので、習字がトラウマだった。

書道とは、教育で、実用性、芸術性、精神性を学ぶものだったのに、今は実用性だけが重視されているように感じる。芸術性と精神性を学ぶ書道とはどういうものなのだろうか。

●信貴黎香さん

その人のその人の個性が出た字が良いと思う。正しい美しい字も良いのかもしれないが、枠からはみ出るような字を書く人であれば、それはそれで良いと思うし、その人独自の字を書くのが良いと思う。

●参画者

僧侶の人がお金がないので、代わりに書をあげていたということを本で読んだ事がある。民衆はそれをとても有難がっていたと書いてあった。そういう書の力が昔があったのだと思う。

そういう作品は、お世辞でも上手くはないが、芸術の作品としての価値が現代に伝わっている。

●信貴黎香さん

その時々によって流行りがある。僧侶が書いた字が流行った時がある。

●参画者

先日、筆で年賀状を書くとき、肘を固定して付けていたら字が小さくなってしまっとうまいかなかった。その後、肘を付けずに書いてみたら勢いが付いてよかったように思う。右手の使い方や書き方について少しお聞きたい。

●信貴黎香さん

年賀状ぐらいの小さいところだと、肘を付けていた方が良いと思う。半紙ぐらい大きくなると肘は付けない方が良い。

左手を右手の下に入れて、少し浮かせて、引きながら書くというのも良いと思う。

●おやじ

ありがとうございました。次回は安達さん。

冒頭話をした仮称「日本自治会」について。規約も無いし、規約を作る気も無いが、「そういうところに入っていいよ」という団体があればご連絡いただきたい。

日本自治会は、細川さんに専業としてやってもらおうと思っている。一緒にやりたい人がいれば、むすびの里に連絡を頂けたらと思う。

会社でもいいし、本当は、地域の自治会が入ってくると良いなと思う。何らかの形で集団で、みんなで助け合いながらやっていければよいのではと思う。来年はそれを真面目にやろうと思う。

でないと、憲法草案を作ったとしても、国会議員に頼るしかなくなる。結局誰も実現できる能力は無い。

こういう意見を活かしていき、実践していく本体を作りたい。「自分達はこれでいこう」と決めて進めていければ、それが社会活動になっていくと思う。